

頌

城

鰲

全

特別

~13

4157

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20  
JAPAN  
Ta-uma

東都之名物京稿之  
 南醒先生人山東高  
 京傳先生著論文化  
 流子行子花  
 紙魚ノ餌下海ノ悲心  
 人物才氣子新元ノ一語ニ世傳ノモ考ノ誤ノ一助也  
 上問ノ三本ハテハハク世田傳ハ吉原ノ景現及  
 一友ノ事ヲ聞テ在斯書曰ク何ノ事ニ修補ノ地ナラシ  
 修系ノ切レミヲ修繕ノ考取出シテ折第  
 鳴呼此書

坂田文庫  
 坂田文庫  
 坂田文庫

子柄  
 不負ガ百人  
 子柄  
 子柄

藥福ノ法床養年  
 初冬ノ多。打趣ノ多。

も清の原。惠連よき。訓條也。  
く属いなき。先連に發句知侍らば。  
く此抄くるものにまよハ。原の原結  
くこの於五泉。年抜の好句年。  
て此抄の合の年むとまき年。  
刺志も増点を加ふ。動一。揚句の

ケイロウキ

好くもき。母年。冬。く。終。通。り。も。  
此道年。遊ぶ人。親急の背。二年  
く。ま。ま。切。結。妙。あ。ふ。ハ。地。乃  
く。第。年。一。及。ふ。無。一。の。一。は。表。は。句。よ  
く。此。年。の。川。作。堤。ハ。町。上。は。八。調。也  
く。屋。伊。蘇。の。坐。尔。中。座。は。あ。く。じ

多き。多き。筆句と云く。小菊の  
 折端は。花に。彼の。花。花。花。  
 花。花。花。花。花。花。花。花。  
 乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。  
 尔。尔。尔。尔。尔。尔。尔。尔。  
 入。入。入。入。入。入。入。入。  
 入。入。入。入。入。入。入。入。

ケイロニ

知。知。知。知。知。知。知。知。  
 知。知。知。知。知。知。知。知。

山東菴

京傳述



三。三。三。三。三。三。三。三。  
 三。三。三。三。三。三。三。三。

戊申の正月買と云  
 戊申の正月買と云





ひつてき  
筆力とてしかなし一おも有るべきまねどもとて正筆  
なるのこぞとて又軟體との正

○ 審美女席といふ六義車師女席の世話をあづかる  
女席といふ又世話女席といふの別を新造かきり

○ 附録に載るる四家のとばは母のく一軒よりの家  
通言葉のこめめらうくあつて

### 山東京傳正ス

ケイロノ四

### 松葉館

ざりま表  
左りの角  
むんどう女命  
川

### 松葉屋瀬川

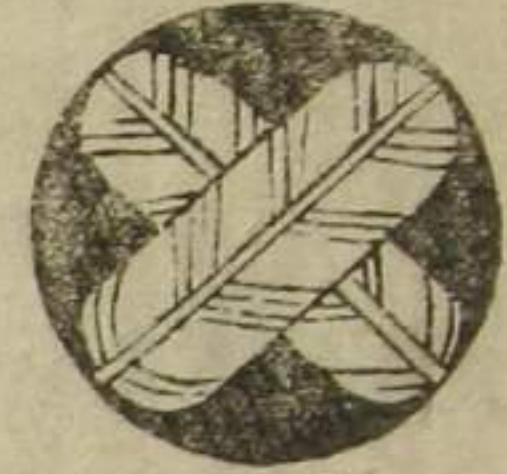
さしやりの  
まじりま事を  
この母  
人  
まじりま  
まじりま

書 女祝人  
茶 遠州  
香 二条家  
琴 二条家  
糸 竹の

高時七代りの名跡あるの君乃  
風俗衣通飛小町も押しつ  
不施粉黛自然ニ美ナリ 松葉と  
いひ川にひき乃ら後より美事  
風俗衣通飛小町も押しつ  
名いつがまらうとされハ今も  
あふいかなるせんせい万ある  
なまを常より系事ひまの  
さきまらう風俗してんれん  
ゆらんごあひらるるこ  
松葉の方面箱し是神仙中の



定モシ



カエモシ



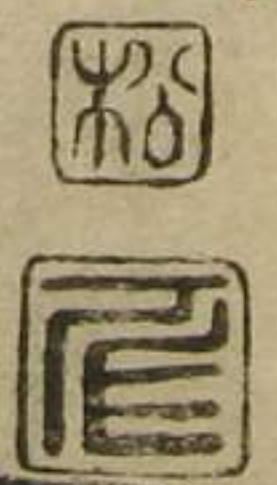
モヤウ  
ヲヒタカノ羽



合平枝キヤウ

いんげんていれはらうと  
いんげん

松人土



松葉館

一向をアとらうよ

そりまへて

かー押ーい

くさて  
う炭有

まゝの道りハ

琴 葉

芥之味せん

生花

神祇よー

下と

うぬ路

あーさ

右の角  
どんぞう  
まべうら

松葉屋 深山

一舟あいらはらうよ

点々原花新よあーられ

笑ハ惑陽城ヲ男ハいあもさうこ

ぬ人もけ君の風俗とほめぬ

形別く道中のまぐさ

たのむ種といひしはらうよ

い後書あうく他乃傾城もけ君の

あまきやうとらうよ

あう万事元のほめぬ方し

神とあんとてあのお金をいのり

琴ハあまらうよ



定モレ



カエレ



サノハチ  
マヒタカニリマクシタル  
キヤウ也

合不 校ム

おのらりりあるる  
いりりあるる  
形あなり

松葉館

志のぼりと  
さう入りく  
くはく有り  
白いきり  
長キ  
白  
葉  
香  
めなみ

松葉屋 漆川

芳あかき来く全堂法よ  
すぎあり中務町のしるたん  
く風俗のむらあ人のぬれ  
ととほこしきしやあけはて  
人うの能はハすの  
凡そかんのいり人つと有て  
望あま多しけ君ハ漆川の君  
とい川あすあしと持し  
函故く母すきん母く  
全堂乃りいほい竜虎を  
いりて  
たんえいとく人愛ふりりり



定モノ



カエモノ

イタドリ



合手四ツ目

# 春風 龍 夢

## 三日月

### 茶葉館

弱はるべ

わどま

かき

句

ま

茶 あり

琴

秀

かろ

いろ

甲

右より左  
おん  
いと

### 松葉屋瀬山

いづれと批君の風信さるや  
まんらんよりのいよこぼしやさの  
なまぬまをそわし清事  
おもたぬしかほし織袖  
おわらうハまご娘守のうせざる  
おむる人し言佐の娘君と  
あすともたのりしうさ茶事  
おさしやあしうさいけあて  
おかたさる門めいし川岸と  
いひしはゆらうそほらるる  
おほまらうそ今あてのや  
全盛日くよ傍まら

定モノ



カエモノ  
エダカレハ



合ネコホレ松ハ

おはようございます  
おはようございます  
おはようございます

松葉館

和のりこと

せりそして

ほまが

そあし

一句初ん

仕まじ

げん

琴の葉香

尺八

禿

子の日

小松

右のきぢ  
おんまめ  
すけうら

松葉屋若菜

眉色不加黛如望遠山去年の

春突出ーとわうてうりカあ

やそののあ後があそひ未

後取のゆきとあそひ二の

うら上つてあそひあそひ

そあそひあそひあそひ

あそひあそひあそひ

あそひあそひあそひ

あそひあそひあそひ

あそひあそひあそひ

緑の国色也

定モシ



カエモシナシ

天目紋



合テナシ

人しきめさし さらばこゝろ  
しきしたま 物しき  
しきしきしき なる

七

# 鶏舌樓

けいげつろう

切んのよきつり  
このむら

あんざい

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

# 丁子屋雛鶴

ていしやひなづる

たりのきこ  
だんご  
はま

莊子曰鶴不浴白云むべし

魚麩といひ一箱よりたまは

うらなかりり骨のたふさるは

ご一深くは事とさしふ

はねさしたの勢もおのづかう

おまよくたまはむらばむら

きしきま事このむらさし

よくはあ人のやくさくも昔十日

あまら云はまをいそあまのむら

去年のま真自作乃白年

よ人の袖にあよ斬乃梅



定モレ



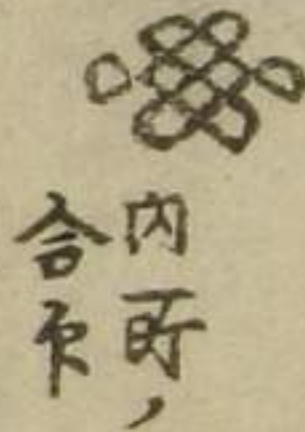
カエモノ



カニアラセ日毎月

二十六日

三十日夕ウフノリヤリ



内所合布

合布ヲリツルニバ



常ニ此  
モヤウアル  
マキガミナ  
キハシテ  
用ユ

いづれの物も  
あつた

### 鶏舌樓

時ふありてふつのも  
いづくもけい  
のうてむのけい  
点し

げいの  
けい  
は東三味せん  
琴  
手  
てんげ  
ちうらとんか  
物ふらぬきとあ  
おのろきとあし  
かぶち  
たごの

ざーせ甲らう  
むつ子のとき  
たん  
つまこく

### 丁子屋長山

さーせ甲らう  
むつ子のとき  
たん  
つまこく  
さーせ甲らう  
むつ子のとき  
たん  
つまこく  
さーせ甲らう  
むつ子のとき  
たん  
つまこく  
さーせ甲らう  
むつ子のとき  
たん  
つまこく  
さーせ甲らう  
むつ子のとき  
たん  
つまこく

万客断骨之斧迷心之毒也

定モノ



調度



カエモノ



元組長山菊ヲ好ラモヤウ  
合ジルレゾニ舟シユハ、代、コレヲ  
用ユ

ワ那子 津みねあや  
えらねらーいーいーい

鶏舌樓

せいせんろう

いやはま句は  
きんか

あん

まを  
とれど

びの  
さうぐハ

香  
み

人取とこのサ

かぬらやど  
いど

せいせんざん  
おつきあさう  
きんか  
まよ山

丁子屋千山

せいぜんざん

世々の凡俗に方々のまゝとてころし  
こころあやうやなくゆきみま  
まのりたふしやうじがらうり  
わうくこあうこ又あんと  
こころあやうやなくゆきみま  
はこころあやうやなくゆきみま  
くーのたまをゆきみま  
新造のくーの家のまもけあは  
ら後このまもけあはら後この  
まもけあはら後このまもけあは  
わけ出べし





定それ



カエモレ



合下ガヨマウヤク

酒

ゆめ

りあ  
りう  
りあ  
りう  
りあ  
りう

# 鶏舌樓

しんせらろ

ごくおりろき  
占突し

どろどろ

れーと

りて

おとせんよ

ふ人の

たぬあり

おのじのり

酒幸

よくとら

うまを

かあり  
人後

きうの

うこの

せーと  
夜の  
たん  
新波

# 丁子屋錦戸

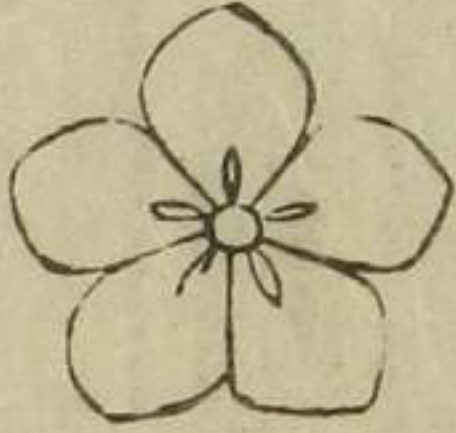
あーまど

至りききのもーた  
等のまねー車など  
又あんやま  
たれぬんらん  
車とこのこ  
目をうら  
やうま  
あく人の  
能く  
きり

定モレ



カエモレ



以前ハ丸ノウキニ  
夕子ハ「定モレ」ニ  
付シガ其後ワルニ改メ

合平キヤウ



Handwritten text in cursive style, possibly a signature or a note, written vertically.

# 鶏舌樓

強弱交々

このまじ

其うい

このむ

かぶ

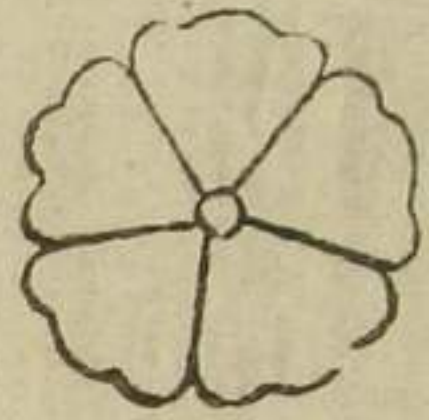
やまひ  
もろぢ

# 丁子屋小晒

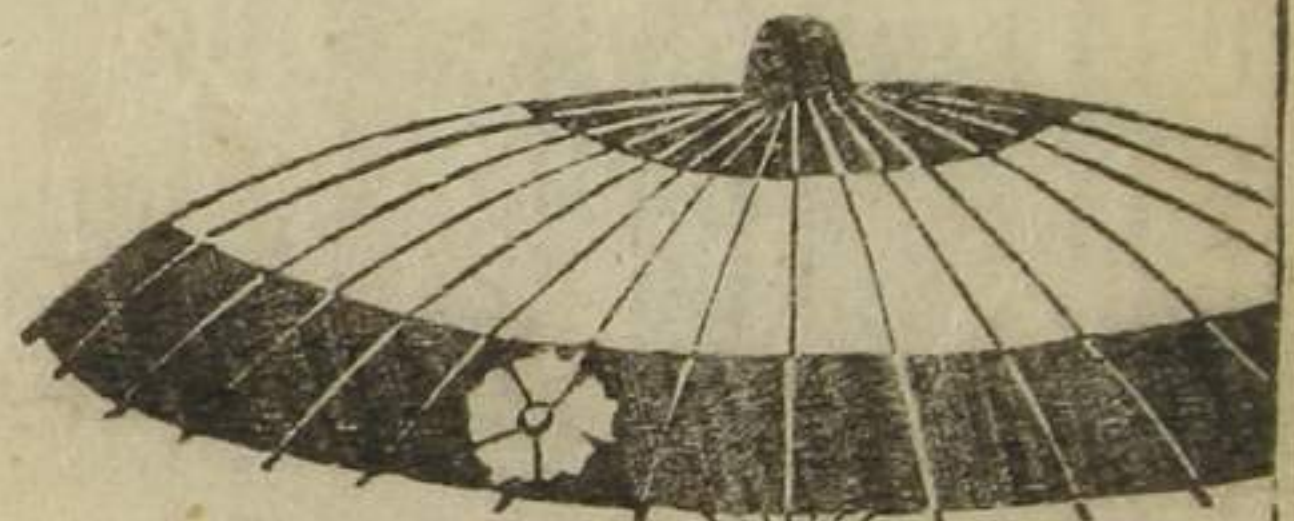
さし表  
たより二  
たん

Handwritten text in cursive style, likely a signature or a note, written vertically.

定モレ



カエキ



以前ハテウセンヲ  
定紋ニ付ケシガ  
其後ウルニ改ム



合子唐琴

Handwritten text in large, expressive cursive characters, likely a signature or title.

鶏舌樓

けいざろうろう

鳥の舌と楼を

鶏舌と楼

鳥の舌と楼

長き句

五今 香

画と香

ツバキと香

小きいこの世

かろ

さうさ表  
たう角  
たんどう  
唐抄り

丁子屋唐琴

かとう

法はひさかりありて画が好く上品  
乃名有り又琴がつひの考り  
とまてさうさ表の風俗世よす  
鳥の舌と楼と香と香と香と香と  
くも有りその情ふたづこか  
まろくど多く十はの句  
あつきの家のゆふき  
五日の風又ちよきのあやう  
あんどいあいの龍田山  
君がのをどし有り情  
あー金巻廊中ふい

雞舌樓

あざけあぐりさうふ  
さうまのすー  
あやうさ  
この母

どの  
さうまの  
あやうさ  
さうまの  
あやうさ

あやうさ  
さうまの

あやうさ  
さうまの  
あやうさ

丁子屋御耐山

寺村の位別の地多しけ君を  
丁子屋とわたりしごまを  
ちうさんのうかあうて今所  
のちとかりしうさのさうま  
あやうさのさうま有りさうま  
あやうさをさうまのさうま  
あやうさをさうまのさうま  
あやうさをさうまのさうま  
あやうさをさうまのさうま  
あやうさをさうまのさうま  
あやうさをさうまのさうま



定モレ



カエモレ



松風



画ノ下  
丁子楼



合テヨニダタ

かこし



丁子屋

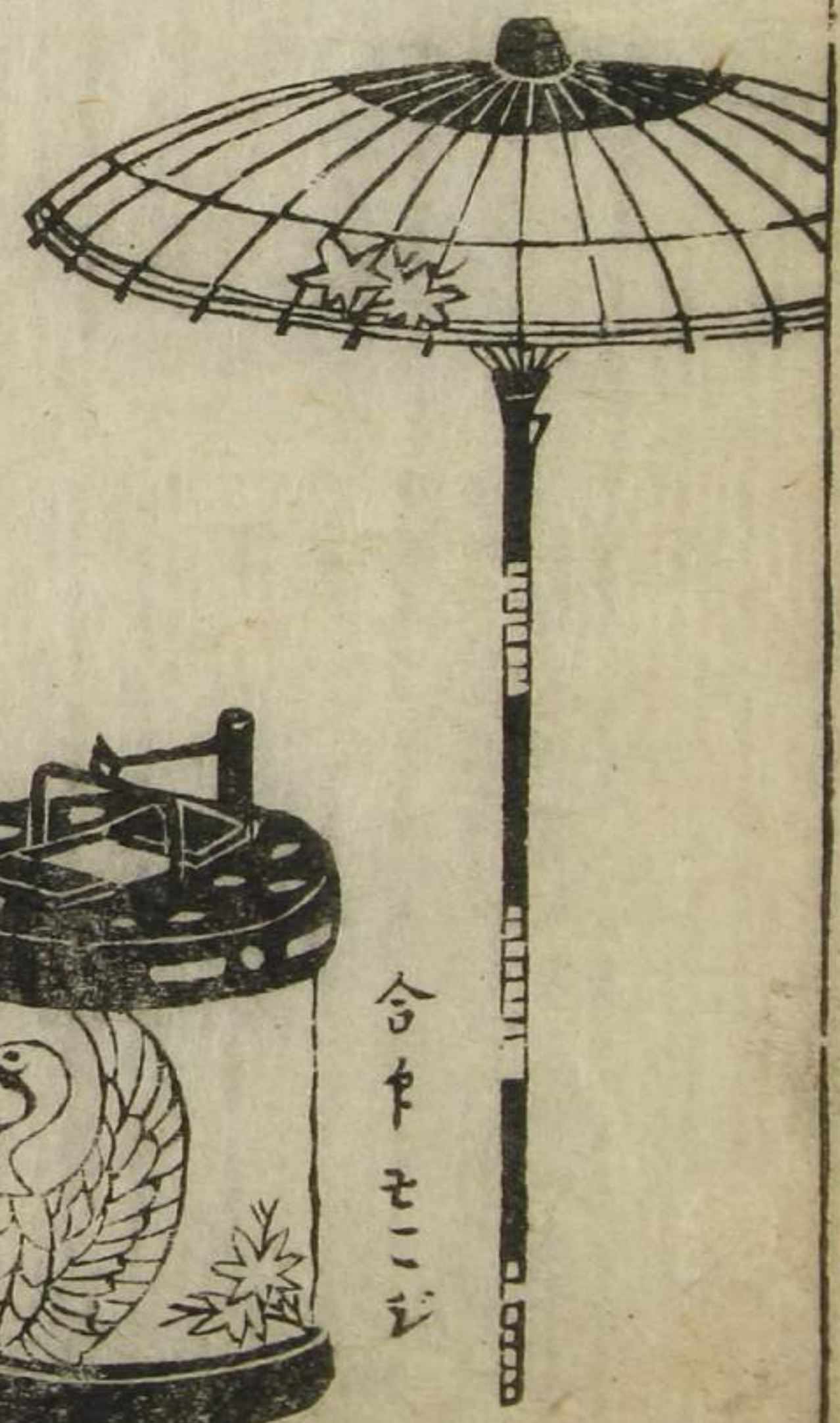




定モレ



カエ  
モレ



合中モレ



唯此符りか

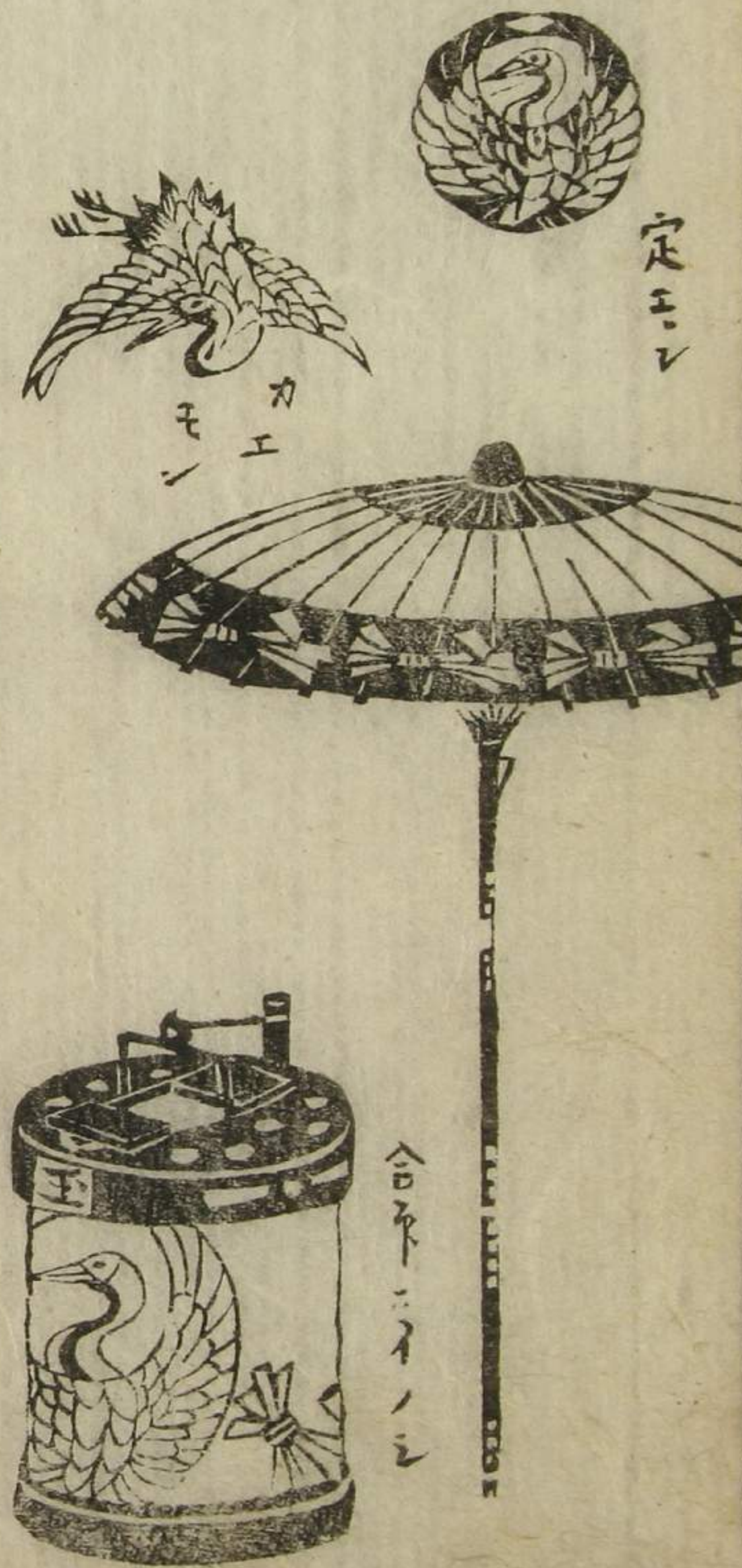
雞舌樓

玉の井

丁子屋玉葛

くまの  
暖雨うまの  
木母守  
兼さくら  
新句  
かんろう  
兼し  
京地名  
かぶら  
あて  
りぬま

け君の苑のまやこの生れあねばよ  
まろあし風終まはつしひつめて  
やはしめあつそふむ人し  
がらうまろうとわかもまろ  
かべされれおごの夏実出  
まろり客人の山まろし一り  
まろのまろまろまろまろ  
兼井ふまろまろまろまろ  
まろまろの風終まろまろまろ  
まろまろまろまろまろまろ  
まろまろまろまろまろまろ



いさよあ  
たりる

カヘナ

五明樓

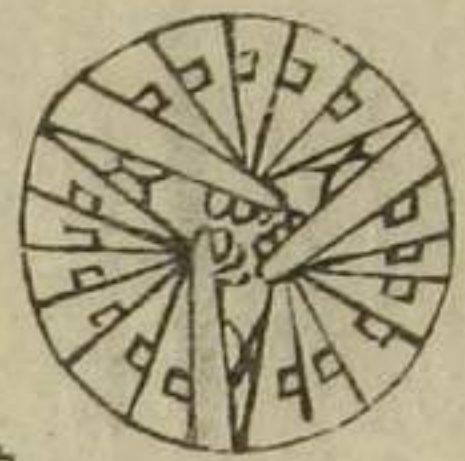
さーき表  
右の角  
たんろう  
白ごり

扇屋瀧川

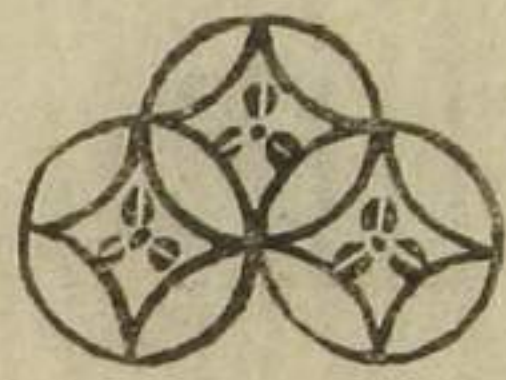
五月交ふ一  
月の夜と  
この世  
ひまふ  
はまふ  
糸琴  
香鼻  
羽六  
かあは  
たあま  
む波

まゝに新妻のきこふおはらう  
去年の夏新造をゆかりの  
まゝにふまのうらなは  
廓中の目とねらぬらう一めぐり  
おしやうとふまひり 幸は物心  
かたひらう月終るあらのおはらう  
か 娘嬢をうらなはらう容室  
わらうとあふらうおはらうて松の位  
たう付のあうらうらうもさう  
はらうら舞はらうはせらう

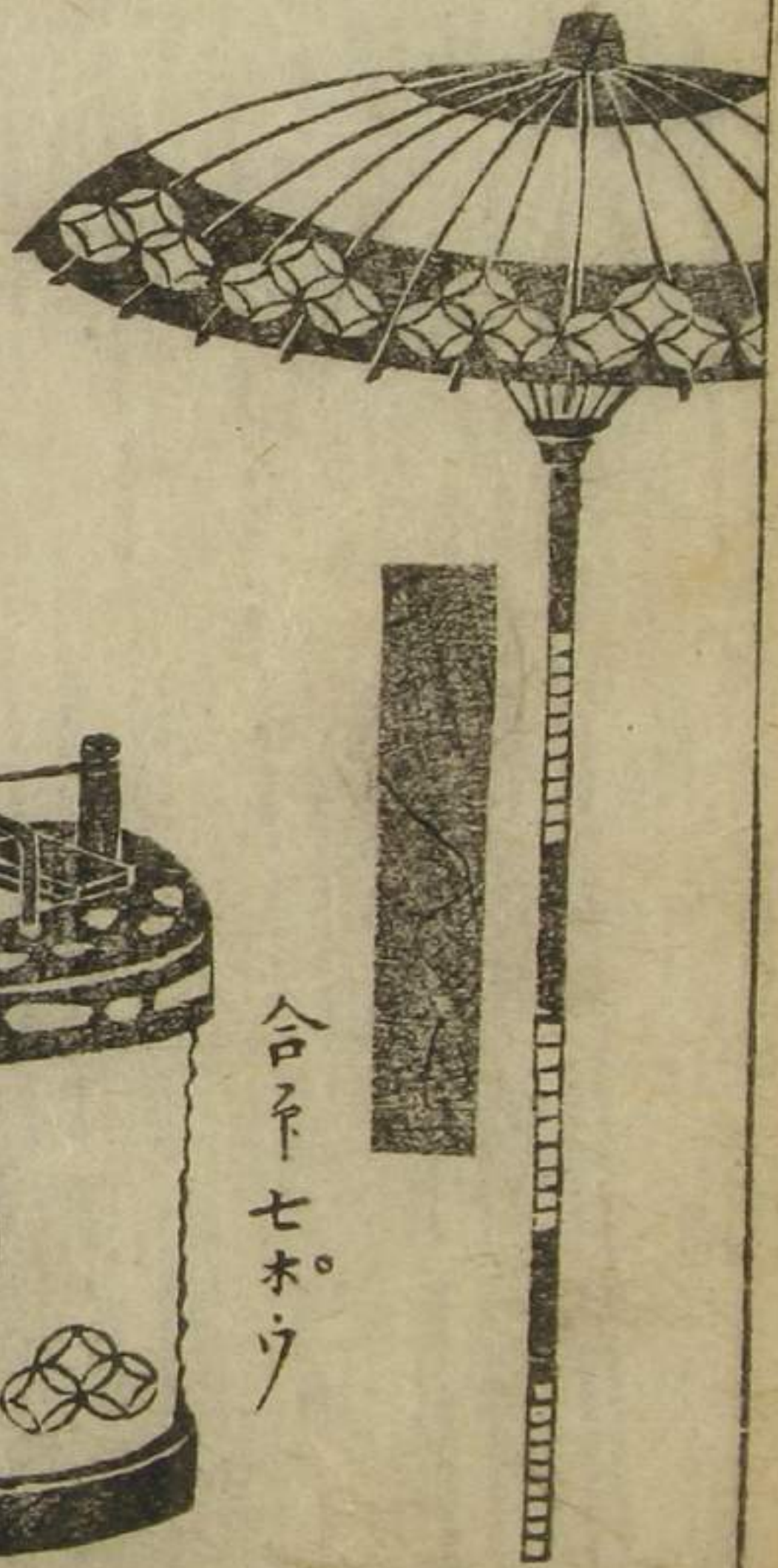
定モレ



カエモノ



七宝  
三ツカシハ



合子七ホウ



Handwritten calligraphy in vertical columns, likely a poem or a list of items.

ケイ十八

# 五明樓

あけんぐ  
かえり

やうき

句年  
ま

琴  
葉

香

つらばい

うめ

さくら

もも

# 扇屋花人

さきき  
右よりニんり  
たん  
あは

不<sup>ず</sup>知<sup>ち</sup>古<sup>こ</sup>今<sup>い</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>義<sup>ぎ</sup>婦<sup>ふ</sup>あ<sup>あ</sup>る  
申<sup>ま</sup>じ<sup>じ</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>や<sup>や</sup>あ<sup>あ</sup>ん  
く<sup>く</sup>ふ<sup>ふ</sup>し<sup>し</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>や<sup>や</sup>あ<sup>あ</sup>ん  
ま<sup>ま</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>や<sup>や</sup>あ<sup>あ</sup>ん  
て<sup>て</sup>物<sup>ぶ</sup>つ<sup>つ</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>や<sup>や</sup>あ<sup>あ</sup>ん  
花<sup>は</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>や<sup>や</sup>あ<sup>あ</sup>ん  
花<sup>は</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>や<sup>や</sup>あ<sup>あ</sup>ん  
花<sup>は</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>や<sup>や</sup>あ<sup>あ</sup>ん  
五<sup>ご</sup>丁<sup>てい</sup>町<sup>ちやう</sup>年<sup>ねん</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>終<sup>しゆう</sup>お<sup>お</sup>し  
人<sup>ひと</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>や<sup>や</sup>あ<sup>あ</sup>ん

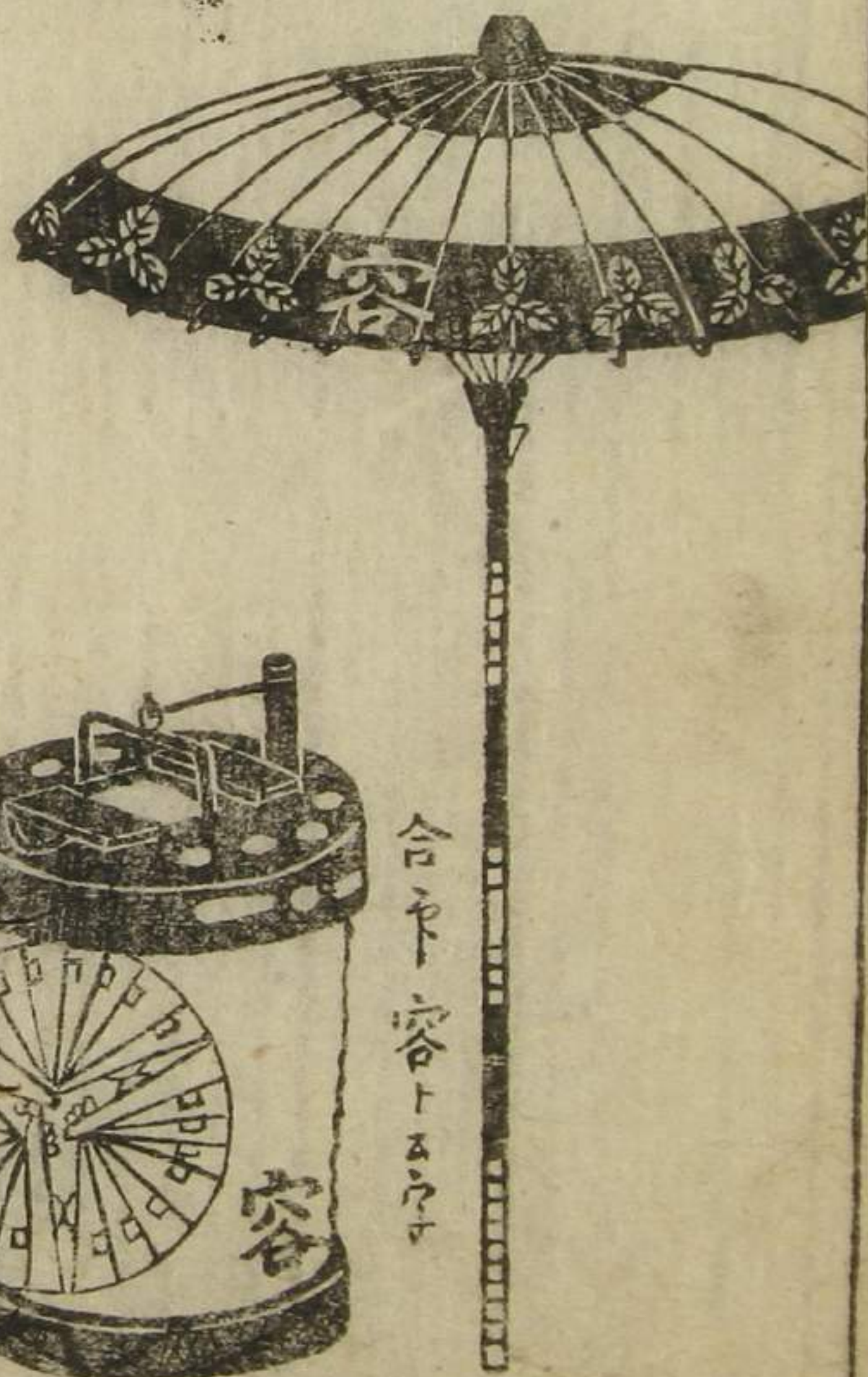
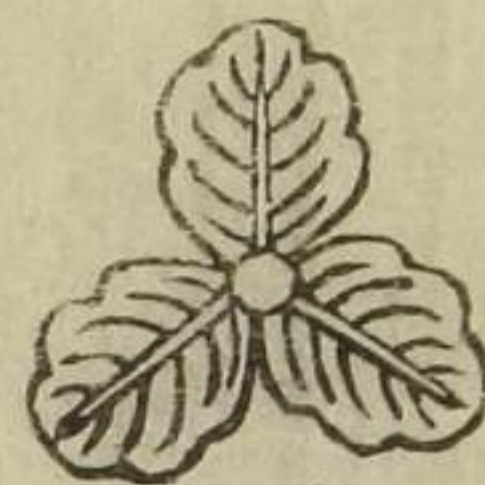




定モレ



カエモレ



合テ容トスルヤ

容



わしあつめりさひはて

めり花

# 五明樓

句ゲ

じんよう

作

まいの

そいど

書 琴

ツ架 香

双六

かつね

里 村  
ち ち

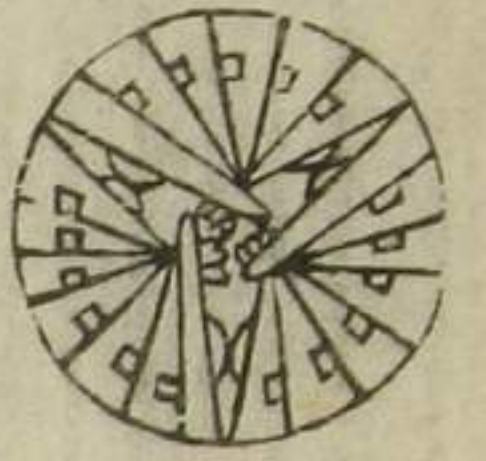
角の角  
らんそ  
花つふ

# 扇屋十市

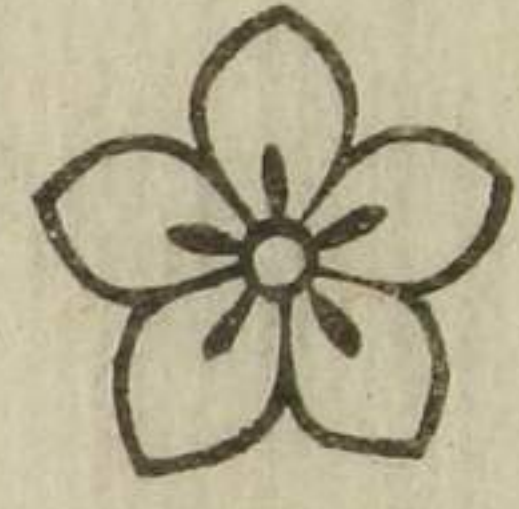
ことち

十市の和列の名なきは地名し  
 け君法母年いひいづくまふか  
 志やびいそ其名よふ先あ原る  
 乃承あく波強とまい十四方結  
 時云園のいあり大字の額に  
 むうのつうしん  
 志ふ慶し  
 うけくし百の燭をさす  
 合テ容トスルヤ  
 容

定モレ



カエモレ



合字の字

仙



人

掌

上

玉

笑

夢

谷

石の橋

十布



五明樓

さしこ表  
右より三ツんめ  
七ツの

扇屋七越

一句

やり

仕立

茶

香

かぬろ

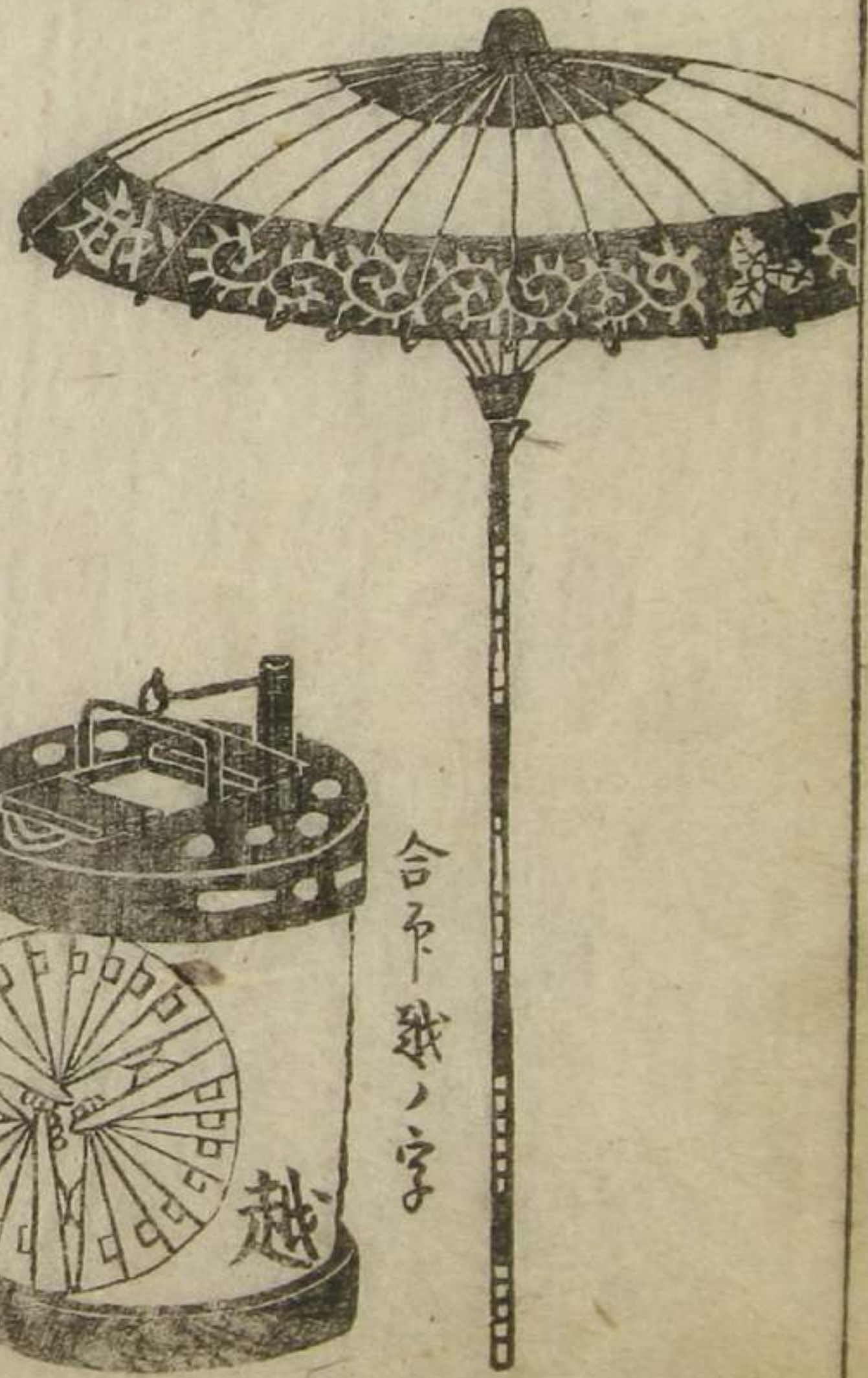
きう糸  
の

かんぞせいに三月の枕元のこく  
ふしきすしそふ風のなほけ  
月法をとかくぬいのきん  
物志のうかりてその入る物  
一海きこちやうなすん  
めんよるををぬらんぞとて  
あはきるうそのぬいそり  
万巻の中折るはあつその本  
毎夜なり此君嘗て巧言合  
色返き

定モレ



カエモレ



合不我ノ字



越

Handwritten calligraphy in vertical columns, consisting of large, fluid characters.

五明樓

考をやり

あつひゆく

附と

そめし

茶事 書

琴 二味せん

多

つれも

道々

かみ

なまくら  
ふる

扇屋湖光

小舟

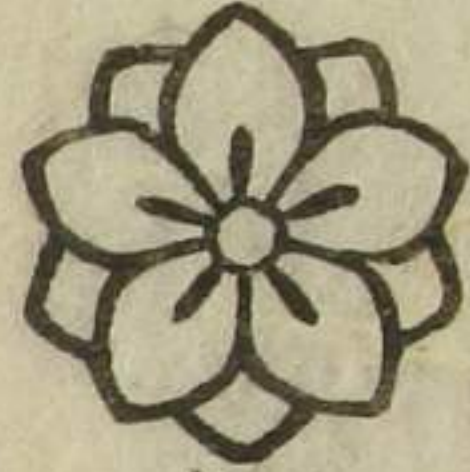
さしよめ  
右を二んめ  
たん  
たつ

まらまといよひし時よりしよひ  
ゆいのかやうそあさう今よほ  
てあのかみ跡とつぎいよ  
せんせいといきやんはり幸  
月まに離れお新務小傍る  
おのつちもかくや有らん中田と  
ふくさうあひて一目もかく幸  
形しつらきいあひさやう有て  
二茶事やうあひてよき書と  
なり万事あさうやうあり不  
いけまの涼窓より出さるや

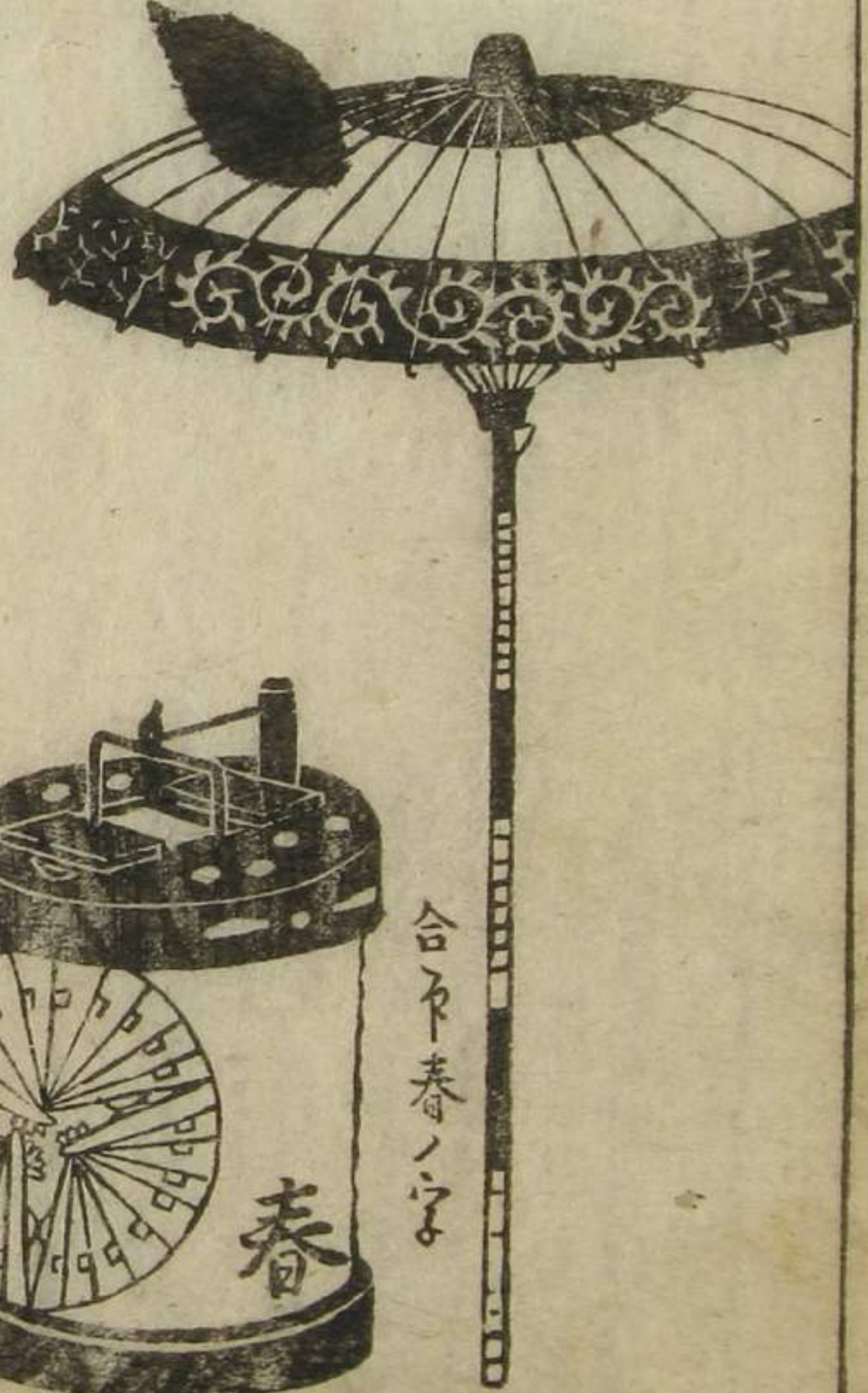




定モレ



カエモレ



春

合春ノ字

Large vertical calligraphic characters, likely a poem or a decorative inscription.

ケイサ五

### 五明樓

合情

舞歌言

むかん

舞

書 東江流

香

香

好むもの

多何の猫

禿 竜田

吉野

春日の表  
まらん  
まらん

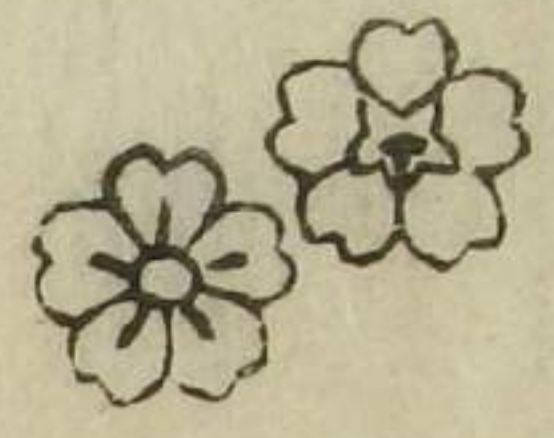
### 扇屋花扇

まらんまらんまらんまらん  
夜にまらんまらん  
去年の夏まらん  
ゆの袖のまらん  
まらんまらんまらん  
全盛のまらん  
乃まらん  
まらん  
まらん  
まらん

定モレ



カキセシ



合ナククラ色入



五明



五明 橋



玉楼 花め茶のめ



ケイ 廿六

玉楼

吐く角 小の

角玉屋濃紫

玉楼  
玉楼  
玉楼

玉楼

玉楼

玉楼

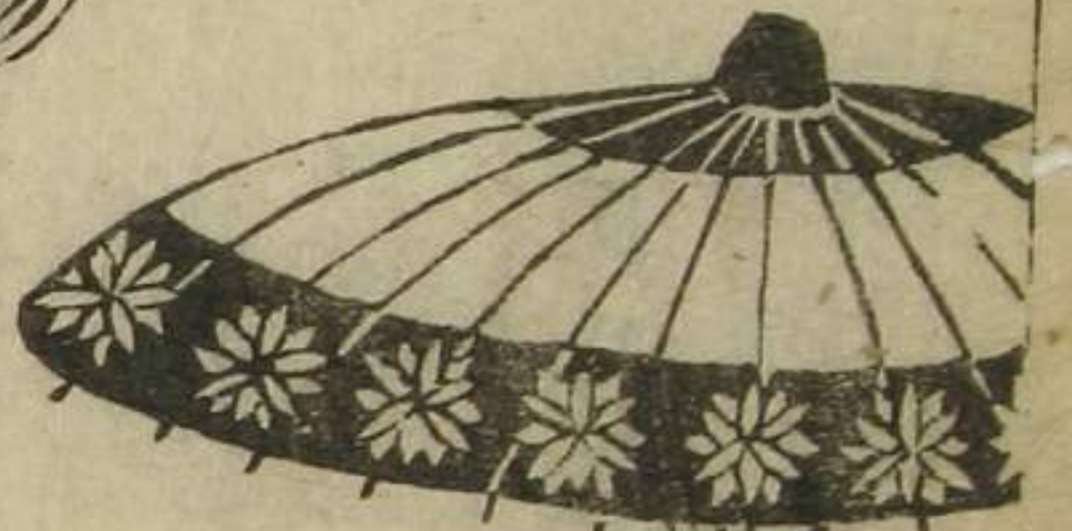
玉楼

新君法... 角玉屋濃紫



カエモノ

定モノ



合子手ノ字

内所ノ合子

玉梅おめ

濃心書



ケイサ七

鶴樓

鶴屋菅原

はやくたをぞふ

士立座

さしづり

白くま

書きあは

きり物有

梅子のふ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

禿梅の

新有

空しを表  
右の角  
おんさう  
そのちり

一解をえんらるるなる中しやうそ  
たをる事かこのむらうのも押り  
ゆきさきあつてしあわくのあまを  
事かきさしひよりのさきまをさ  
よれとらどささるるうさく一寸も  
あまのこぬえんらるるなる中し  
うさうらうらうらうらうらうら  
とら道中のあまのこしあまのこ  
け君とさあ中の二あまのこ  
温而厲威而不猛恭而安よくは  
かろふと全く盛しはれ名と梅枝と

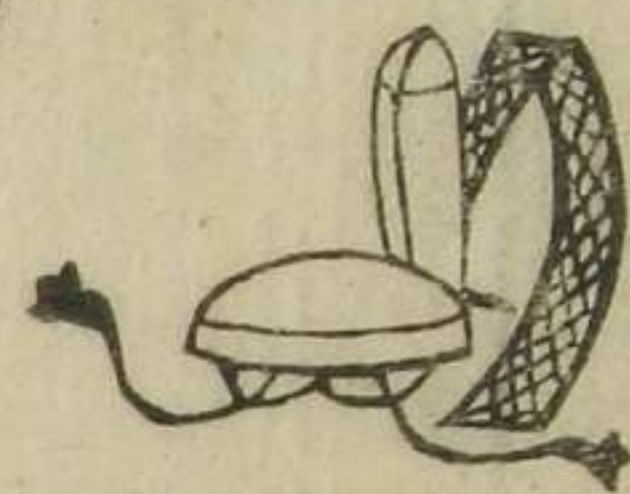
定モノ



カエモノ



合



合下梅ナリエタ色入



ツタアイ色入

わももろかた無  
うららら花もあはれ

ナイサハ

# 大菱亭

わのりしと占成し  
さぞか向成  
このむとあへん  
あまか向も  
さぞ楽有

送るハ  
齊ニ味せん  
好むもの  
よめとわのやま  
長が舞  
うぬほれぬ  
かあゆ  
沢の壁

さーきたく  
おのり  
花のり

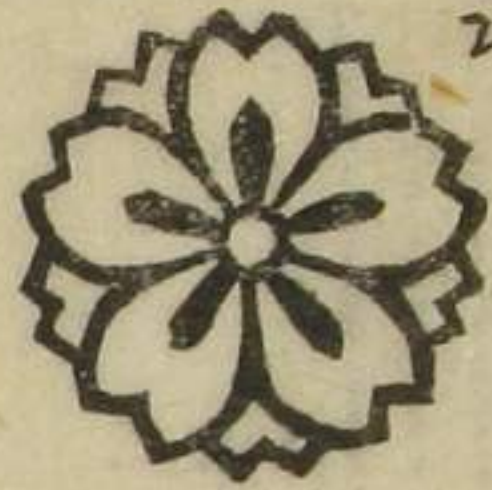
# 大菱屋象瀉

象瀉ハ羽別由利の郡乃名を  
地名しけ君をさしやうらららん  
あまか向のまらりこい入  
いへりわり海しそらうつ  
さーらりの凡らせいのみさ  
と好むもの花もあはれ  
りく蝶首蜂腰閑月花を能  
乃この舞るあはれ鏡ハ寸  
其氣を湯とむかひこの君  
さぞあまのり花もあはれ  
立川をこのま今よの金  
いさやひ五町まらあはれ

定モノ



カハモノ



合平カララサガキニトエ字



おてしうまいころはうにの  
のりきりさほやの  
やんとはうらう

マヤシ丸

附録 松丁玉扇四家言語解

○松葉屋言

おと

どどりのみ

さりとおえなれ

うらちのりかみり

つら

かじくつらみ

あれく

あつおと

ま

あまの

あまの

あまの

おと

あまの

あまの

あまの

あまの

○丁子屋言

ざんせ

ずんざんすくろく  
ざんせりせいのていし

ニ味せんぜん

毎夜二色の  
とわのりくちのちんせ

いふちりくくよけはせつとむかやう油の  
やうち島いあくよ有丁ふやふかま

きりひねちせやうせい

こちちりくや

こちちりかん

こちちりかん

いむせりけね

はまのり

ゆげんせり

かんていせんすくろく  
このいこのいこのい

きさき

編り

あいのり

全上

きちびりかん

何ぞもあのかん

かたがらまる  
あいのり

ちりりかん

ちりりかん

いあめりけね

あつげのまや  
さかきとせ

○角玉屋言

とんめく

足ふくいとりの  
人さうふとさう

とんめく

とんめくのり  
とんめくのり

あきれけちよ

とんめくのり  
とんめくのり

ちんせり

ちんせりのり  
ちんせりのり

ほちく

ほちく

ちんせり

あめり

あめり

○扇屋言

かんえんせり

人のとらふ  
さうふとさう

かんせ

かんせのり  
かんせのり

とんめく

あいのり

あいのり

きさき

きさきのり  
きさきのり

とんめく

きさき

きさきのり  
きさきのり

とんめく  
とんめくのり

大尾

角玉屋	松浦 誰袖	大俵屋	吉野	中万字屋
鶴屋	左原	大文字屋	竹屋	佐助屋
琴海老屋	小夜梅	若菜屋	越前屋	若松屋
大菱屋	二ツ花	江川	勝山	若松屋
河菱屋	万菊	固本屋	白山	若松屋
		岩越	白山	若松屋

後編 傾城鰯

右の書は多し遊君其外全盛の遊君抄多し其外編ふしとされ君八部産しちさく委しく一述日後扁出し一り

狂言鶯蛙集 全二冊  
はまのあそびの  
 狂言秀逸を  
 あつらひて

ムスコヒヤ 全一冊  
はまのあそびの  
 むすこひやの  
 柳屋より  
 少とほくまて

狂詩選諺解 全一冊  
四角先生の  
 とまへん  
 くはとまへん

新美人合自筆鑑 全一冊  
えびどんありせどひつる  
 新美人合自筆鑑  
 傾城乃  
 自筆と  
 わりて

味唐珍解 全一冊  
唐六の  
 の花長  
 あげやまて  
 とまへん

東海道狂歌名所雙六 全一冊  
東海道  
 狂歌名所  
 雙六  
 とまへん

耕書堂 首屋重三郎梓

江戸通油町

